

⑦新しい開発インパクト

動向 2025大阪・関西万博の開催を契機とした大阪の魅力発信

・2025年に夢洲で開催予定の「大阪・関西万博」は「持続可能な開発目標(SDGs)達成への貢献」および「日本の国家戦略Society5.0の実現」をめざしている。万博には人・モノを呼び寄せる求心力と発信力があるとされ、**万博開催時・開催後も魅力ある大阪を内外に発信することが求められる。**

【2025大阪・関西万博会場周辺のインフラ整備】

《2025大阪・関西万博》
 期間：2025年5月3日～11月3日 185日間
 テーマ：いのち輝く未来社会のデザイン
 約2,800万人の来場者と、約2兆円の経済効果が見込まれている。



◆会場面積は、155ヘクタール。
 (会場中心部にパビリオンエリアを設け、南側には水面、西側には緑地を配置。)



提供：2025年日本国際博覧会協会

出典：国際博覧会推進本部資料

動向 うめきた2期地区開発プロジェクトの進展

・うめきた2期区域は「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」をまちづくりの目標に掲げており、2024年夏の先行まちびらきに向けて「うめきた2期地区開発プロジェクト」が進められている。まちびらきに先駆け、UR都市機構や2期開発事業者により2期区域内の一角に「うめきた外庭SQUARE」が設けられ、うめきた周辺地域への「みどり」の波及に関する先導的事業として様々な実証実験が行われている。

【うめきた2期地区開発】



【うめきた外庭SQUAREでの実証実験】

出典：うめきた2期地区開発プロジェクトHP

■ AIカメラによる混雑度判定



うめきた外庭 SQUARE ノースラボ
10:48



AIカメラを用いた屋外環境における人流・属性・特定行動検知実証。AIカメラによる混雑度判定を行い、当日の人の入りをモニタリングしました

出典：UR都市機構HP

■ うめきた外庭 SQUARE での取り組み内容

本施設は、「みどり」のリビングラボをコンセプトに、地域の方々や行政、民間企業とともに未来のまちづくりのための実証実験を行う活動拠点です。



< 基本方針 >

- [1] 都市公園の先進的な管理運営、環境整備につながるトライアル
- [2] 持続可能なパークマネジメントに寄与する付加価値創出に向けた多様なアイデア・企業活動のトライアル
- [3] 都市公園におけるアクティビティ活性化、新たなコミュニティ形成に向けたトライアル

出典：三菱地所HPニュースリリース「うめきた外庭 SQUARE」での実証実験が本格始動

動向 新大阪駅周辺地域のまちづくりの基本方針

・令和2年3月公表された「新大阪駅周辺地域都市再生緊急整備地域 まちづくり方針の骨格」では、新大阪の圧倒的な広域交通アクセスの良さを活かし、**世界一の広域交通ターミナルとしてのまちづくりを実現し、大阪の国際都市化のフラッグシップとなり、関西、日本の発展を支えることをめざすことを掲げている。**

【日本・アジアの発展に向けて新大阪駅周辺地域が担うべき役割と導入すべき都市機能】

【新大阪駅に関する鉄道・高速道路ネットワーク（イメージ）】

(1)スーパー・メガリージョンの西の拠点<交流促進機能>

ビジネス・産業

- 多様な人や情報等が融合することで、人が育ち、新たなビジネス等を生み出していくことが重要。
- 企業等の集積を図るとともに、広域で活動する人が集まり、フェイス・トゥ・フェイスのコミュニケーションを通じて人間関係を築ける機能を一体的に提供。

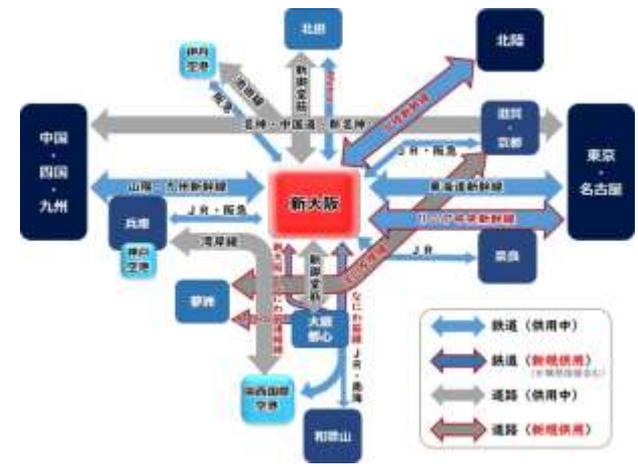
観光・文化・エンターテインメント

- 関西・日本の多様な魅力を体感できる環境を整えることが重要。
- 観光客のベースキャンプとして、日本各地とのネットワークを構築し、快適な滞在環境を整え、送客・滞在拠点の形成を図る。

取り組みの方向性

- 低利用の民有地の開発促進、公共空間と民間建築物の重層的活用促進
- 開発者と利用者側のネットワーク構築など

図9. 交流促進機能（ビジネス・産業）



(2)広域交通ネットワークの一大ハブ拠点<交通結節機能>

- 多様な交通サービスの提供や利用者一人一人に最適な交通モードへの乗り換え利便性の向上などにより、交通結節機能を強化。
- 国内外から訪れる多様な人々が安全、安心に移動できるよう、ユニバーサルデザインのまちづくりを進める。
- 新大阪の拠点となるエリアを広げ、移動のシームレス化やリダンダンシーの確保を進めるため、新しい交通システムの実証などによるハード整備や事業者間の連携によるソフト面の取り組みを組み合わせて進める。
- 最新技術の導入を前提として、人と駅・広場・都市の空間を一体的に捉えた革新的モビリティデザインの実現に向けて、関係者が連携して取り組むことが重要である。

取り組みの方向性

- 関係基盤整備の連携、新大阪駅交通広場での立体的な空間利用の促進、地域内の回遊性を高める、シームレスな交通システムの実証

図11. 交通結節機能

(3)関西・西日本・アジアから人を迎え入れる国際都市のゲートウェイ<都市空間機能>

- 日本の国際都市としての顔にふさわしい高い魅力を持った都市空間が必要。
- 新しさや歴史を持つ深みのある高質な都市空間を創造。
- 淀川の活用など、光、緑、水などを効果的に取り入れた、利用者にとって居心地のよい空間などの形成を図る。

取り組みの方向性

- 人の空間となるオープンスペースや面的な広がりをもつウォーカブルな空間の確保
- 官民が連携し、計画段階から活用、維持管理などを見据えた検討

図12. 都市空間機能

動向 都市再生緊急整備地域における都市開発事業の進展、拡大

・「都市再生緊急整備地域」及び「特定都市再生緊急整備地域」は、より快適に生活できる場の提供等により都市の魅力を高めるとともに、資本や人材等呼び込み、立地する産業の国際競争力を向上させる都市再生を的確に推進していくとして、多様な取組を進めている。

【都市再生緊急整備地域及び特定都市再生緊急整備地域の概要】



都市再生緊急整備地域名	面積 (ha) (特定地域面積)	地域を定める政令の施行日
大阪駅周辺・中之島・御堂筋周辺地域	490 (82)	平成14年7月24日 平成24年1月20日特定指定・範囲拡大 平成27年7月24日特定範囲拡大
大阪コスモスクエア駅周辺地域	154 (53)	平成14年7月24日 平成24年1月20日特定指定
難波・湊町地域	36	平成14年7月24日 平成19年2月28日範囲拡大
阿倍野地域	21	平成14年7月24日
大阪城公園周辺地域	121	平成24年1月20日 平成29年8月2日範囲拡大 令和2年9月16日範囲拡大

みどりを活用した取り組み事例

【二子玉川ライズ】

総開発面積約11.2haの民間再開発。駅とつながり、約6.3haの二子玉川公園へと続く街のなかに商業施設、オフィス、住宅街区等を整備。2015年第2期事業開業。

「水と緑と光」の豊かな自然環境と調和した街づくり



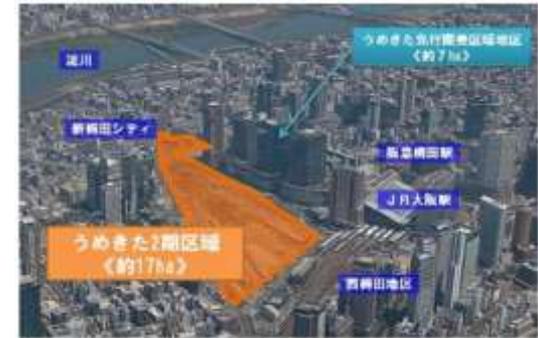
※この図像は第2期事業を含めた完成予想図です。



出典：二子玉川ライズHP

【うめきた】

旧梅田貨物駅にあたる約24haの区域。大阪、関西の発展をけん引し日本の国際競争力を強化する新たな拠点として2002年から開発が始動。先行開発区域（グランフロント大阪）は2013年まちびらき、2期区域では2024年の先行まちびらきに向け開発が進められている。



出典：大阪市HP「うめきた（大阪駅北地区）プロジェクト」

うめきた2期区域の開発事業者が決定しました



出典：大阪市HP「平成30年7月12日大阪市長会見（うめきた2期区域の開発事業者が決定しました）」

みどりに求められる役割の変化

都市再生の起爆剤としてのみどりを軸としたまちづくり

まちづくりと一体になった都市公園活用イメージ
(南町田グランベリーパーク)

■南町田グランベリーパークの整備イメージ



鶴間公園に新たに整備された広場とクラブハウス



出典：南町田拠点創出まちづくりプロジェクトホームページより抜粋

出典：まちづくりと一体となった都市公園のリノベーション促進のためのガイドライン～都市公園リノベーション協定制度の創設について～（令和2年10月7日国土交通省 都市局公園緑地・景観課）